

Proceso / Process

「Pamilya(パミリヤ)」は、今回のキビるフェスのために制作された新作である。ここでは、その制作プロセスについてドラマトゥルクの長津の視点から紹介する。
(2020年2月16日時点)



2019.1.27	村川と長津の初顔合わせ
2019.3.15	村川の福岡訪問 福岡市文化芸術振興財団のスタッフと顔合わせ
2019.3.18	新作公演の制作決定
2019.3.27	メールで、村川より作品内容の提案 「介助の現場を題材にした福岡での滞在制作による新作」
2019.3.29	村川と長津がトーク登壇/ロームシアター京都
2019.5.1-2	福岡での会場下見と打ち合わせ 村川から外国人労働者についての話題が出される
2019.6.5-8	福岡でのリサーチ① 外国人介護人材に関するシンポジウムを視察 在留外国人ヘルパー向け日本語教室の活動を知る 福岡市内で文化活動に取り組む障害者福祉施設に訪問 「稽古場リサーチ」開始(日本人4名) *稽古場リサーチ…ロコミでつながったヘルパーの方々を稽古場に呼び、日頃の介護労働の様子を稽古場で再現してもらう
2019.7.6	福岡でのリサーチ② 福岡県障がい者芸術活動支援センターが主催する演劇ワークショップを見学 小都市内で文化活動に取り組む障害者福祉施設に訪問 外国人介護人材育成を行う団体に所属していた田中さんに初めて会い、ヒアリング
2019.7.15-20	福岡でのリサーチ③ 「稽古場リサーチ」実施(日本人4名、外国人3名[ジェッサさん含む]) 福祉施設を訪問し、ヘルパーへのヒアリングも行う(外国人6名) 福岡市内で外国人介護人材受入を検討する障害者福祉施設を訪問
2019.8.23-26	福岡でのリサーチ④ 「稽古場リサーチ」実施(外国人4名[ジェッサさん含む]) 稽古場に来てもらったヘルパーの職場見学。
2019.9.14-16	福岡でのリサーチ⑤ 「稽古場リサーチ」実施(日本人1名、外国人4名[ジェッサさん含む])
2019.9.21	村川と長津が京都で打ち合わせ 出演者をジェッサさんにしたい旨の話が村川からある。
2019.10.2-3	記者会見と出演者の決定 キビるフェス記者会見、新聞社取材、フェスの他団体との交流会。 ジェッサさんに出演を承諾してもらう。
2019.10.29	ジェッサさんの勤務先へごあいさつ
2019.12.1	チケット発売開始
2019.12.4-10	稽古①(福岡県小都市)
2019.12.27-30	稽古②(福岡県小都市)
2020.1.7-8	稽古③(福岡県小都市)
2020.1.8	公演タイトルが決定する
2020.1.11	会場下見(出演者と)
2020.1.11-16	稽古④(福岡県小都市)
2020.1.21	会場下見(テクニカルスタッフと)
2020.1.21	メディア掲載(西日本新聞)
2020.1.24	チラシ配布開始
2020.1.31-2.8	稽古⑤(福岡県小都市)
2020.2.5	メディア出演(KBCラジオ)
2020.2.12-21	小屋入り、稽古(福岡県福岡市)
2020.2.22-24	本番



2019.8.6
「すべてならべて、落ち着きたい」

多くの協力者の方たちのつながりで、稽古場で話を聞いたのは13人、それ以外で職場などに赴いて話を聞いた方は16人に及んでいた。(中略)「いったん、すべてならべて、落ち着きたいんすよ」。引いた目で、起こってきた出来事の全貌を見渡したい、という願望。リサーチで出会った人たちの固有の物語を聞くプロセスでは、いくつものドラマティックなストーリーがあった。しかし村川さんはそのストーリーをただ編み上げて見せるという手法はとらないのだと思う。



2019.8.25
現場のディスコミュニケーションを知る

ライフヒストリーをひとつひとつ伺っていく。なぜ介護の仕事をしたのか、出身はどこか、今の職につくまでの経緯、などなど。(中略)今回のNさんは、どちらかというところよりも日本人に近い風貌をしている。がゆえに、日本人として振る舞おうとするし、周りも日本人としての理解を促そうとする。そのことがきっかけとなり、実際の介護現場で起こる出来事について、教えてもらう。つくづく、外国人介護労働の現場は、ディスコミュニケーションをどう乗り越えるかの連続なのだと感じる。



2019.12.9
現場が協動的につくられつつある

実際に何が起こっていたのかをさまざまな方法で問い続ける。それをしていたのは誰か、誰にあててそれをしていたのか、そのあと何をするのか、それはいつするのか、そのことで誰がどんな反応をするのか、それは早出(朝のシフト)の時なのかそれとも夜勤の時なのか……。しだいにジェッサさんも、何が見せられるもので、何が見せるのが難しいものなのか、を敏感に感じ取っていく。振る舞いだけでは何をしているのかわかりにくい時に、その動きがなんの動きなのかを、さりげなくセリフで補おうとする瞬間があったとき、ああ、この現場は協動的につくられつつあるな、と思った。



2019.12.29
タイトルどうするんですか

稽古場として使わせていただいている場所からJRの駅まで歩いて帰っている時に、タイトルどうするんですか、と村川さんに尋ねると、わからん、長津さん考えて、と言われる。(中略)日々の生活で行われていることを舞台上でただただ再現する演劇。そこに、もうひとつの意味が観客にも、演者にも、演出家にも規定されていく言葉がタイトルなのだと思う。



2020.2.8
滞在最后の夜 介護福祉士候補生という規範と逸脱

いろんな話が出る。フィリピンでのジェッサさんやジェッサさんの家族の話、昨日田中さんとジェッサさん、それに村川さんと出かけて行ったという外国人介護労働者や介護福祉士候補生の人たちとのパーティーの話、そこで出会った人たちの話。夏頃からやっていたリサーチの時に出会った人たちとたくさん再会した日々のように、高まってきたなあ、と感じる。(中略)外国人、介護福祉士候補生、ということの規範と、そこからの現実的な逸脱と、それを舞台にあげるという行為を想う。



このページの文章は、ドラマトゥルクの長津によるブログ「村川拓也公演「Pamilya(パミリヤ)」リサーチ」からの引用です。全文をごちからご覧いただけます。
<https://note.com/yuichironagatsu/m/m0a91e1430b2f>